

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 24 日現在

機関番号：37111

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25350792

研究課題名(和文)女子バスケットボール創成の解明

研究課題名(英文)Creation of women's basketball in Japan

研究代表者

柿山 哲治(KAKIYAMA, TETSUJI)

福岡大学・スポーツ科学部・教授

研究者番号：10255242

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：1902(明治35)年に長崎活水女学校で撮影された古写真中にバスケットゴールを発見し、同型のバスケットゴールが存在したか否かを検証するために、バスケットボール発祥地である米国スプリングフィールドカレッジアーカイブセンター所蔵の当時のバスケットボールオフィシャルルールブックからゴールのルール変遷に関する記載内容を抽出して分析した結果、長崎活水女学校のバスケットゴールは、バックボードが整備される前のSCREENのルールに準じていることが特定され、1903(明治36)年以前のルールに準じて設置されたゴールの形状である可能性が示唆された。

研究成果の概要(英文)：Basketball is said to have been first introduced to Japan in 1908 by Hyozo Omori, a graduate of the YMCA International Training School in Massachusetts, USA and director of the physical education department at the Tokyo YMCA. On the other hand, the inventor of basketball, Naismith wrote, "I do know that as early as 1900 Hancock, in his book on physical education in Japan, mentions basketball as an important part of the program for Japanese women." Basketball hoops were installed at an outdoor gymnasium of Nagasaki Kwassui girl's school in 1902 based on the Amateur Athletic Union (AAU)'s basketball rule book before 1904. Therefore, it may be said that basketball was introduced at girl's schools in Japan, prior to the accepted theory that Hyozo Omori first introduced basketball to Japan (1908).

研究分野：スポーツ史

キーワード：長崎活水女学校 マリアナ・ヤング女史 バスケットゴール SCREEN

1. 研究開始当初の背景

バスケットボールの日本への移入は、1908 (明治 41) 年、国際 YMCA トレーニングスクールを卒業して、東京 YMCA 体育部主事となった大森兵蔵が、初めて紹介したというのが定説とされている。しかし、バスケットボールの創始者ネイスミスは自伝の中で、「日本では男子より先に女子で始められた」と記述している。また、輿水はる海は、定説以前に女子バスケットボールのわが国への導入として、(1) 日本人留学生による導入、(2) 遊戯書による紹介、(3) 外国人宣教師による導入の 3 つの過程を言及している。さらに、申請者は、1902 (明治 35) 年に撮影された長崎活水女学校の屋外運動場に木製のバスケットゴールを発見した。すなわち、1908 (明治 41) 年以前にわが国にバスケットボールが導入されていた可能性は高く、女子体育創成の観点から定説を問い直す必要がある。

2. 研究の目的

本研究では、わが国におけるバスケットボール移入の定説を問い直すため、3 つの仮説を設定し、その検証を行う。

(1) わが国では男子より先に女子がバスケットボールを行ったという仮説の検証 明治 41 年以前の新聞記事や外国人宣教師が在籍して体育教育を奨励した女学校の学校史を分析して史実を明らかにする。

(2) 定説以前に、長崎活水女学校でバスケットボールが行われていたという仮説の検証 現時点で、活水学院資料室に現存する史料からは、その史実を確認づける古写真や卒業生の証言が得られていないため、ヤング女史が活水女学校着任以前のアメリカでの足取りを訪ね、バスケットボールを教示する知識を持ち備えていたか否かの検証を行うとともに、アメリカメソジスト監督協会への報告書を検証し、その中に体育の授業内容の報告が含まれているかどうか確認する。

(3) 大森兵蔵以前にわが国にバスケットボールが導入されたという仮説の検証 輿水が提唱した 3 つの導入過程を再度検証し、いつ、どこで、だれが最初の導入者であったかを特定する。

3. 研究の方法

3 年間で確実な研究成果をあげるために、(1) わが国へのバスケットボールの導入は男子より女子の方が先であったこと史実の検証を行う。そのために、ネイスミスが書き残したハンコックの原書を再読し、その内容を検証する。

(2) 明治 30 年代に長崎活水女学校でバスケットボールが行われていたという史実の検証を行う。そのために、活水女学校に新式体操を導入したマリアナ・ヤング女史のアメリカでの足取りとアメリカメソジスト監督協会への報告書の内容を検証する。

(3) 明治 41 年に大森平蔵がわが国にバスケットボールを最初に導入したという定説以前にバスケットボールが導入されていたという史実の検証を行う。そのために、明治 41 年以前の新聞記事、遊戯書、外国人宣教師が体育を導入した学校の学院史から、いつ、どこで、だれが、どのような内容で最初にバスケットボールを実施したのか検証する。

そのため、2013 年 9 月 3~6 日に米国オハイオ州デラウェアにあるオハイオウェスレヤン大学を訪問し、アーカイブセンター所蔵の 31th~39th Annual Report of the Woman's Foreign Missionary Society of the Methodist Episcopal Church 1899-1900~1907 1908、32~40 Annual of the Cincinnati Branch of the Women's Foreign Missionary Society of the Methodist Episcopal Church 1901~1909、The Minutes of The 1st~9th Session of The South Japan Woman's Mission Conference of The Methodist Episcopal Church、Woman's Missionary Friend の 4 種の報告書および機関誌の記述内容から、活水女学校とバスケットボールに関連する記事を抽出した。また、同年 9 月 7 日~10 日に同国マサチューセッツ州スプリングフィールドにあるスプリングフィールドカレッジを訪問し、アーカイブセンター所蔵の Amateur Athletic Union (AAU) Official Basket Ball Rules 1895~1906 1907 から、ゴールのルール変遷に関する記載内容を抽出し、抽出内容の分析を行った。

4. 研究成果

(1) ハンコックの書籍内容の検証

ネイスミスが書き残したハンコックとは、H. Irving Hancock と思われ、明治 30 年代に発行された書物は、Japanese Physical Training (1903) と Physical Training for Women By Japanese Methods 柔術 (1904) の 2 冊が検出された。Japanese Physical Training (1903) では女子に特定した記述は一切確認できなかったが、Physical Training for Women By Japanese Methods (1904) では、basket ball の文字が 1 箇所だけ確認され、女子が屋外で行う価値あるスポーツの 1 つとして紹介されていた。

(2) WFMS 関連報告書の記述内容から抽出された活水女学校とバスケットボール

WFMS 関連報告書は 4 種類確認できたが、1899 (明治 32) 年~1901 (明治 34) 年に開催された The South Japan Woman's Mission Conference の議事録中に、3 年間に渡って「Basket ball」を含んだ記述が抽出された。その中には、活水女学校から WFMS シンシナティ支部にバスケットボールを行うための施設や用具を要求している様子が窺え、ヤング女史は 1901 (明治 34) 年 3 月以前には、バスケットボールに関する書物入手して

いた可能性が示唆された。さらに、1904（明治37）年11月に発行のWoman's Missionary Friend に紹介された活水女学校生徒の文面に、「Basket ball」を含んだ記述が抽出され、活水女学校の生徒は、1904（明治37）年の11月以前にバスケットボールの存在を認知していた可能性が示唆された。

（3）バスケットゴールのルール変遷と活水女学校のバスケットゴール

AAU Official Basket Ball Rulesにおいて、バックボードに類した標記が確認されるのは1895-1896年度以降のSCREENであり、1904-1905年度から厚さが少なくとも3-4インチ（7.62-10.16cm）の木製のバックボードを設置することが明示されていた。また、1902（明治35）年に撮影された活水女学校屋外躰操場に設置されているバスケットゴールは、木枠に金網が張ってあることが判明し、木製のバックボードになる以前のSCREENであることが特定され、1903（明治36）年以前のルールに従って設置された可能性が示唆された。

（4）マリアナ・ヤング女史とバスケットボールの接点

オハイオウェスレヤン大学の体育授業でバスケットボールが導入されたのは明治30年であり、ヤング女史は明治26年6月に当大学を卒業しているため、ここでバスケットボールと接した可能性は低いと考えられた。また、ヤング女史は明治27年9月から明治30年7月までアレガニーカレッジでラテン語およびギリシャ語を担当しながら、当カレッジのヒューリングスホールで教務助手を兼任していた史実が発掘された。しかも、当カレッジに体育館が設置されたのは明治29年であり、それ以前は、ヒューリングスホールでバスケットボールを含めた女子の体育授業が行われていた。したがって、ヤング女史は、活水女学校着任直前に勤めていたアレガニーカレッジでバスケットボールと接した可能性が示唆された。

本研究により、WFMS報告書から、ヤング女史は1901（明治34）年3月以前には、バスケットボールに関する書物を入手していた可能性が示唆された。また、AAU Official Basket Ball Rulesによると、バスケットゴールの背後に設置する金網製のSCREENから硬い木版のバックボードへのルール変更がなされたのは1904（明治37）年であり、1902（明治35）年の活水女学校に設置されているバスケットゴールは、1903（明治36）年以前のルールに従った木枠に金網を張ったSCREENであることが特定された。さらに、ヤング女史は長崎活水女学校着任以前に勤務したアレガニーカレッジでバスケットボールと接点を持った可能性が示唆された。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計0件）

〔学会発表〕（計5件）

（1）柿山哲治、大学体育におけるコーチングとティーチング - バスケットボールを教材にして - 「教科教育の立場から」、九州体育・スポーツ学会第64回大会、2015年9月11日、西九州大学（佐賀）

（2）Tetsuji Kakiyama、Basketball was introduced to Japan at first as a sport for women rather than for men、20th annual Congress of the European College of Sport Science、2015年6月26日、Malmo（Sweden）

（3）Tetsuji KAKIYAMA、The Possibility of Basketball Having Been Introduced as a Women's Sport in Japan: The History of Women's Basketball in Japan、ISHPES Congress 2014、2014年9月25日、Doha（Qatar）

（4）柿山哲治、アメリカ人宣教師マリアナ・ヤング女史とバスケットボールの接点、日本体育学会第65回大会、2014年8月27日、岩手大学（盛岡）

（5）柿山哲治、明治期の長崎活水女学校に設置されたバスケットゴールの特定、体育史学会 第3回学会大会、2014年5月11日、神戸大学（神戸）

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

柿山 哲治（Kakiyama Tetsuji）
福岡大学・スポーツ科学部・教授
研究者番号：10255242

(2)研究分担者 ()

研究者番号：

(3)連携研究者 ()

研究者番号：

(4)研究協力者 ()